



## インドで結婚式に参加してみた (その1)

### 1. はじめに

読者の皆さんは、「インド人の結婚式」と聞いてどんなものを想像しますか？日本のように挙式、披露宴、二次会があるのか？どんな人が参加するのか？どんな料理が出るのか？

一般的に、インド人は、数日間にわたって結婚式を行います。つまり、「1人の女性」（インド人の同僚はこれを強調していました）と複数回の結婚式を行います。各式の位置付けは微妙に異なっています。友人と踊り明かしたり、家族と過ごしたり、思い出を作ったり。

筆者はこの度、インドで3日間の結婚式に参加しましたのでそのときの体験を紹介します。

### 2. 結婚式1日目（カクテルパーティ）

1日目はカクテルパーティ。会場は首都ニューデリーのホテルでした。招待状には「20時～」とあったので、時間に余裕を見て会場に行ってみると、参加者はまばら。後で分かったことですが、インドでは「20時～」を「21時頃」に読み替えるのが常識だったようです。

会場にはヘナペインティングの職人がいました。「ヘナペインティング」とは、ヘナという植物から作った染料で女性の手にもう模様をペイントすること。面積にもよりますが30分～1時間程度で手際よく綺麗な模様を描いてくれます。ヘナペインティングには新郎新婦の幸せを願う意味が込められているのだとか。ペイントが乾くまでは女性たちは手で物を持つことが出来なくなるので付き添いの男



ヘナペインティング

性が女性に料理を食べさせてあげる様子があちこちで見受けられました。なお、ペイントは1週間程度で自然に消えるそうです。ヘナペインティングをした女性に「誰の結婚式だったの？」と声をかけてみれば、会話も弾むことでしょう。

予定開始時刻から2時間も過ぎると、参加者も多くなってきました。服装は、男性がスーツ、女性がサリー。司会者は居らず、会の進行はあっていないようなもの。

新郎新婦の登場が遅いのもインド流。新郎が到着しても、新婦はなかなか出てきません。十分に焦らされた後、新郎新婦がようやく揃います。その後、新郎新婦にお祝いの品を渡したり、お祝いの言葉をかけたり、日本の結婚式と同様の感覚で過ごしていると、前触れもなくDJブースから大音量の音楽が流れ始めました。欧米やインドのヒット曲に乗って、参加者は皆ノリノリで踊り出しました。

24時を過ぎて音楽が止まると、驚くべきことに流れ解散。いたって自由な雰囲気の中、



結婚式（1日目）の様子：音楽に合わせて踊る参加者



結婚式（2日目）の様子：新郎新婦と親族で記念撮影

私もホテルに戻りました。

### 3. 結婚式2日目（ホームパーティ）

2日目はホームパーティ。新郎新婦の親族が参加します。私は招かれていなかったのですが、日本から来た特別ゲストとして参加させてもらいました。

開始予定はお昼過ぎ。1日目と同様、こちらも進行は皆無です。2月のニューデリーは日中の気温が25度前後と過ごしやすい陽気です。この時期に雨が降ることは稀。そのため、ホームパーティは屋外で行われました。

1日目と同様、2日目も新郎が先に登場し、新婦は見当たりません。新郎の周りに新郎新婦の親族が集まり、時折、儀式のようなものが行われているのですが、マイクも無ければ進行もないので、私には何をやっているのか分かりませんでした。

1時間以上経過し、新婦もようやく登場。改めてステージに新郎新婦や親族が次々と上がり、ご祝儀やお祝いの品を渡したり、写真を撮ったりしていました。ステージはそれほど高くないため、後ろからはステージの様子がよく見えませんでした。参加者はそんなことは気にもとめず思い思いに過ごしていました。この場にいたことが重要なのでしょう。

インドでは親族のつながりが日本よりも遥かに強いことが分かりました。両親や兄弟夫

婦と同じ家で生活する場合、20人～30人が同じ家で生活することも珍しくないとのこと。ホームパーティの性質上、1日目より小規模だったとは言え、それでも150名程度は参加していました。

3～4時間続いた儀式が終わると、ようやく食事が始まりました。カレーに限らず、インド料理は全般的にオイリーでスパイシー。結婚式場の料理も例外ではありません。本場のインド料理で痛い目に会った経験のある私は、結婚式場の食材も信用できず、ひたすら我慢していました。

（次号に続く）

#### 著者

高橋明雄（たかはし・あきお）

グローバル・アイビー東京特許業務法人 代表弁理士  
1979年埼玉県生まれ。2005年東京大学大学院理学系研究科物理学専攻修了。専門は物理、電気及び機械。2005年弁理士試験合格。2010年米国パテントエージェント試験合格。企業知財部を経て特許事務所へ。2013年1月より現職。近年はインド、ASEANを中心とする海外現地代理人との連携に注力。

#### 編集者

木本大介（きもと・だいすけ）

日本弁理士、GIP東京所属。1977年神奈川県生まれ。専門は通信、電気、ソフトウェア。2005年弁理士試験合格。企業知財部3年、特許事務所7年の経験を経て2013年7月より現職。

<http://www.giplaw-tokyo.co.jp/jp/>